

6 今年度の重点課題に関する総合評価

基礎学力の向上と基本的な生活習慣の確立を図り、生徒一人一人が自己の進路目標実現に向けて意欲的な学校生活を送ることができるよう5つの重点課題に取り組んだ。

学習活動では、年2回の互見授業週間の継続に加え、今年度は学校訪問の機会を利用して教科別協議会を開催した結果、互見授業の効果が上がり、アクティブラーニングや更なるユニバーサルデザイン化授業への取り組みが進展した。生徒の単位修得率もこれまでで最もよい結果がみられた。今後も有益な取り組みを継続しながら、生徒にとってわかり易くて力のつく授業をめざし、教師一人一人が指導法の工夫や改善に取り組んでいく機運が醸成された。

学校生活では、全校集会等や交通安全教室等の機会を生かし、命の大切さを考える予防教育に加え、事故発生時の適切な対処の方法の具体的な指導を取り入れたことにより、目標が達成できた。一方、生活リズムを整える、改善するというテーマのもと、生徒に自覚と意識を持たせるために長期休業期間中に実施した「生活チェックシート」は、日頃の生活を客観視することができ、大変有効であった。また、今年度から実施した通級指導の取り組みは、個々の受講生徒の力の伸長につながった。

進路支援では、早期に進路目標を意識させ、進路希望の実現を図った。具体的には、年次の進行に合わせた進路ガイダンス、インターンシップ、進路特別講座等の実施により、勤労観や職業観の育成を図った。また、特別に支援が必要と思われる生徒の就職支援のため、外部機関との連携を図った。就職支援教員を中心に企業開拓を粘り強く行うとともに、就職希望者に対して2～4社の「応募前企業訪問」を実施した。生徒一人一人へのきめ細かい指導を行ったが、進学・就職の進路目標は94%に留まった。

特別活動では、チャレンジデーと称した遠足や体育大会、球技大会等の学校行事に「充実した学校行事だった」「よりよい人間関係が築けた」と答える生徒の充実度の割合が目標を達成した。読書指導では、図書貸し出し冊数の増加を目指したが、前年度よりも後退した。電子機器の普及による読書スタイルの変化も踏まえつつ、広報活動や生徒委員の活動の工夫を行っていく必要がある。

総合福祉科では、現場実習や外部の講師を招いての介護技術公開発表の機会をとらえて、思いやりの心やコミュニケーション能力の育成に重点を置いた。年次の段階を考慮した介護技術試験の実施やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開などが生徒の意欲的な学習につながった。この結果、技術と介護の心のレベルアップ、生徒の実習や資格取得への理解や意識が深まり、専門科目への学習意欲が向上した。また、「地域で必要な人材」の育成に結びついた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 将来を見据え、より高次の自己実現に向け、進路指導部や年次と協力しながら生徒を指導していく。
- (2) 「生活チェックシート」の記入を継続し、生徒が自分自身の健康を管理する力を育てていく。
- (3) 様々な機会を通して命やマナー遵守の大切さを伝え、安全意識が根付くよう粘り強く指導していく。
- (4) PTAやハローワーク等と連携し、進路特別講座「上級学校・企業見学会」を実施していく。
- (5) 生徒数減少による学校行事の企画・運営について、更に創意工夫をしていかなければならない。
- (6) 購入図書の選定、ディスプレイ等生徒の興味関心を引く工夫をし、図書委員の活躍の場を設定する。
- (7) 介護技術公開発表を継続して生徒同士の学び合いを促しながら介護の知識・技術の向上を図る。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度 となみ野高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味、関心にもとづき積極的に科目選択をしている生徒がいる一方で、消極的な意識で科目選択をしている生徒も少なくない。自己実現に向けた科目選択を十分に行っていない。 ・ 進路や単位修得に関して不安を持っているが、日常的な家庭学習や選択した科目に対する授業の取り組み方も積極的とはいえないなど矛盾を抱えている。
達成目標	単位修得率 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、互見授業週間を通して授業や指導法の改善に取り組むとともに、ICT機器の積極的な利用や授業のユニバーサルデザイン化の推進を図る。 ・ 授業や年次別学習等において生徒個々の学力の把握に努め、教科担当者等による個別指導の充実を図る。 ・ 国数英の「基礎学力コンテスト」を実施し、年次・教科と連携しながら事前・事後の指導に取り組む。 ・ 通常の授業及び休業中の課題提出の徹底を図り、家庭学習の習慣化を促す。 ・ 学習状況調査や授業に関する生徒の意識調査など各種アンケートを実施し、その分析結果と個人面接とを関連づけて、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・ 担任による面接や個別指導を充実させ、生徒の実態把握に努め、学校生活への意欲を促す。 ・ 年次、教科、進路指導部と連携し、進路目標に応じた学習への取り組みを促す。 ・ 『履修の手引き』の改訂と科目登録ガイダンスの運営を工夫し、多くの生徒が進路目標に応じて、卒業後を見通した主体的な科目選択ができるよう時間割の編成を図る。 ・ 長欠者に通信科目の選択を意識させ、学習の機会を確保する。 ・ 安易な科目選択をせず、自己実現や学力の向上につながる科目登録ができるよう指導する。
達 成 度	96.4%(前期) (H30年度前・後期)
具体的な取組状況	<p><単位修得のための生徒への働きかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人面接や年次集会等で、授業に取り組む姿勢への意識付けを図った。 ・ 進路指導部、教科、年次と連携し基礎学力コンテストを通し学力の定着を図った。 ・ 科目予備登録を実施し、より適切な科目選択となるよう年次や教科と連携した。 ・ 欠課が5を超えた生徒には、欠課連絡票によって担任を通じて本人に注意喚起するとともに、保護者へも連絡し、履修不成立を未然に防ぐようにした。 ・ 長期休暇明けには、年次で課題提出状況を集約し、未提出者には指導するなど学習習慣の定着を図った。 <p><授業改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回互見授業週間を設け、全ての授業を対象とし、教科を超えて幅広く参観し結果を共有し合った。また、後期は学校訪問の際、教科別に協議会を実施し、研究授業をとおして授業の手法や指導法等を幅広く検討するとともに、日頃の授業の悩みや効果的な指導法の実践等についても意見交換を行い、授業改善を図った。 <p><学習・授業についてのアンケート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み状況や教師への要望などについて9月に調査した。(第2回目は2月実施予定) 主な結果は以下のとおりである。数値は順に、今年度9月(昨年・一昨年) 「授業に真面目に取り組んでいる」98%(90・91%) 「授業は自分にとってプラスになると考えている」89%(81・82%) 「先生の説明はわかりやすい」98%(78・87%) 「宿題は提出期限を守っている」72%(82・73%)
評 価	A 達成した
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果から先生方の分かりやすい授業への改善や生徒の学力向上や学習意欲の喚起につながる働きかけがよくなされていることがわかる。家庭での学習習慣の定着が課題であり、生徒個々の進路希望や生徒の状況に応じた個別支援が必要ではないか。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学時代より勉強が好きになった(45%)、分かるようになった(73%)という生徒は多いが、学習習慣はまだ定着していない。授業を理解し、単位を修得するという次のステップを意識させたい。将来を見据え、より高次の自己実現に向け、その進路目標の実現に向かって地道に努力できるよう、進路指導部や年次と協力しながら、生徒を指導していく必要がある。 ・ 学習意欲や意識の低い生徒に対し、進路指導部や生徒指導部と連携し、生徒自身に自己実現に向けた学習の必要性について振り返る機会を設ける。また、年次と連携して学習アンケートを面接週間で活用するなどして、生徒の主体的取り組みを促す。 ・ 分かりやすい授業展開と生徒の授業への取り組み状況向上のため、インクルーシブ教育モデル事業での研修成果を継続して活かしていく工夫をする。 ・ 共学講座の社会人の意欲的な姿や幅広い考え方を学習の動機付けとして活用する。 ・ 長欠者に対して各年次、家庭、スクールカウンセラー等と連携し、心のケアを図りながら、通信科目の受講を勧めるなど、単位修得に前向きになれるよう支援する。

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の高揚 基本的な生活リズムを整えることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故が27年度2件、28年度3件、29年度4件発生している。スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒がいる。 1日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立せず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒がみられる。生活リズムを整えることへの意識は高まっているが、行動に移せない生徒が多い。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 ゼロ件	② 「生活リズムを整えることができた・改善できた」とする生徒の割合 50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝登校指導を実施し、登校時や日常生活全般において時間に余裕を持って行動するよう指導する。 年度初めに全校生徒対象に交通安全教室を実施し、安全意識を高めるとともに原付自転車通学生に対しても安全教室（実技・講義）を実施し、事故防止の徹底を図る。 全校集会や年次集会等で、いのちの大切さを考える機会を持ち、自他のいのちを尊重する意識・態度を醸成する。 車体検査を学期に1回実施し、十分に整備された自転車・原付自転車の使用を徹底する。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向けアンケートを実施し、生徒の1日の生活リズムの実態を把握する。 生徒保健委員会による啓発活動を年間を通して計画し、生活リズムを確立することの大切さについて、全校生徒が意識できるように工夫する。 年次と連携し、「心と体のつながり」や「生活リズム」の大切さを意識させる生徒向け研修会を企画・実施する。 学期末にアンケートを実施し、生徒自身の生活リズムについての自己評価を行わせることにより、健康管理への意識を高める。
達 成 度	① 0件(平成31年1月現在)	② 58%(平成31年1月現在)
	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や年次集会、掲示物等を通して、いのちの大切さとともに交通ルールや交通事故の実例等を説明し、交通安全に対する啓発を行った。 全校生徒対象に交通安全教室（5月）を実施した。 原付自転車通学生対象に交通安全教室（実技・講義）を実施した。 自転車・原付自転車通学生対象に車体検査を2回（4月・10月）実施した。 毎月2回（1日・15日）、交通安全指導を実施した。 交通事故が発生した場合に適切な対処ができるよう、資料「交通事故にあったら」を作成し配布（スマホ内に保存）した。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施したところ、「朝食の摂取」と「日頃の体調」に相関関係があることがわかった。また、生徒達の「睡眠の質」に課題があることがわかった。 保健だよりの発行や全校集会での呼びかけ、文化祭での講習会の実施等、生徒保健委員会による啓発活動を継続的に行った。 生徒が自分の生活リズムを自覚し、改善を意識できるように、夏季・冬季休業中に「生活チェックシート」を記入させた。 年次と連携し、「心と体のつながり」を意識させる生徒向け研修会を実施した（2年次「ストレス・マネジメント講座」3・4年次「ヨガ講座」） 事後アンケートを実施したところ、「食生活や睡眠のリズムを見直したい」という生徒の感想が挙がった。
評 価	A 達成した	B ほぼ達成した
学校評議員の意見	<p>事故の怖さや命の大切さ、社会ルール厳守の重要性、事故発生時の対処法を指導しながら、引き続き安全意識の向上を図ってほしい。</p> <p>生徒チェックシートの活用や生徒向け研修会など生活リズムの改善への努力がなされていることを高く評価したい。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の交通事故件数は0であったが、引き続き未然に防止するため、いろいろな機会を通して、いのちの大切さ、交通ルール・マナーを守ることの大切さを伝え、安全意識が根付くように粘り強く指導していく。 「ながらスマホ」による事故が全国で多発しており、裁判になるケースも発生している。集会、ホームム等を通して注意喚起していく。 「交通事故にあったら」の有効活用。交通事故にあった場合、傷害が軽微であっても必ず相手（氏名、住所、電話番号、車のナンバー）を確認し、すぐ警察、自宅、学校等へ連絡することを徹底させる。 生徒保健委員会を中心とした啓発活動を、今年度も積極的に実施できた。今後もこの活動を継続・発展させていきたい。 今年度から取り組んだ「生活チェックシート」の記入を今後も継続し、生徒が自分自身の健康を管理する力を育てていきたい。 心身の不調を訴えて保健室に来室する生徒に対して、日頃の生活の様子を丁寧に聴きとり、食事や睡眠などの生活リズムを整えることが心身の調子の改善につながることを具体的に伝えていきたい。 	

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人の進路目標実現に必要な能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣が定着していないため、基礎学力に欠ける生徒がいる。 ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な進路目標を持ってない生徒がいる。 ・ 自己表現力が乏しく、コミュニケーション能力に欠ける生徒がいる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率	② 1、2年次の2月の進路希望調査時点で、進学・就職を明確にできる生徒の割合
	100%	1年次75%以上 2年次90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に重点を置き、基礎学力・基本的マナーを身につけさせるとともに、放課後などに個別学習を行い、個々に応じた学力の向上を図る。 ・ 年次別学習において、基礎学力の定着を図るために英数国を中心とした学習を実施し、その確認も含めて基礎学力コンテストを行う。 ・ 職業研究、インターンシップ、進路特別講座（上級学校・職場見学会、先輩講話、進路ガイダンス、社会人講話など）を実施し、進路ノートの活用など事前・事後指導の工夫し進路意識の向上を目指す。 ・ 特別支援が必要と思われる生徒の進路目標実現に向けて、保健厚生部（関係機関、特別支援教育コーディネーターなど）、保護者との連携を密にする。 ・ 全教員及び生徒指導部との連携を図り、基本的生活習慣の向上が進路目標実現に大きく関わっていることを共通認識しながら生徒への指導にあたる。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や管理職を含む校務運営委員と連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論指導を実施し、社会人として必要なマナーや自己表現力を身に付けさせる。 	
達成度	① 卒業予定者の進路目標達成率 91.7% 就職 23名 進学 8名 その他 2名 (2月末現在)	② 進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次 81.3% 2年次 92.3%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力向上への意識が低く、授業に取り組む姿勢に真摯さのない生徒もいる。生徒指導部からの「授業の臨み方」をもとに、教員の共通理解を図るとともに生徒への確認期間を設け、授業の大切さを促すため継続的な指導に取り組む。 ・ 英数国の基礎学力向上を目指し、年次別学習を利用し基礎学力テストを年3回実施した。 ・ 4月下旬～5月中旬に3・4年次担当で、46社の企業訪問を実施し情報交換を行った。 ・ 進路意識の高揚と職業観の育成に向けて、進路特別講座の実施した。 1・2年次対象…寸劇による進路講話(6月)、先輩講話(8月)、上級学校・企業見学会(9月) 進路ガイダンス(1月) 3・4年次対象…進路ガイダンス(6月)、社会人講話「新社会人セミナー」(1月) ・ 進路選択や職業適性について考えさせるため、次年度卒業予定の就職希望者（今年度より3年次も含めて）を対象に「インターンシップ」を実施したところ、16名の参加があった。 ・ JSTと連携し、教員間で情報を共有して生徒への支援を行った。特に、3・4年次生の就職・進学者者に対する面接指導、2年次(2月期末考査以降)に対しての今後の意識付けのための面談など丁寧に行った。 	
評 価	C	①達成できていない ②達成した
学校評議員の意見	1年次から進路意識の高揚に向けた指導がなされている。引き続き外部機関などのネットワークをいかした進路特別講座を実施し、社会人として適応できる生徒を育成するとともに、1・2年次でも面談の機会を増やしたり、保護者を含めた支援の機会を増やしていただきたい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望者の面接練習はなるべく早い時期から実施し、想定される質問への臨機応変な対応ができるように指導していく必要がある。 ・ 進路特別講座「上級学校・職場見学会」について、費用の面からPTAとの共催の検討やハローワーク砺波に新事業として1・2年次用企業見学会を依頼することが必要である。 ・ 特別な支援が必要な生徒に対する進路指導上のノウハウを蓄積し、企業との情報交換も深める必要がある。 ・ 自己理解の確立と保護者の子供に対する理解を深める工夫や対応が必要である。その一助として、2年次において職業適性検査を実施する。 	

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事への積極的な参加 ・ 読書習慣の定着 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動や学校行事を苦手とし、行事になると欠席する生徒もいる。特定の人とは話せるが、大勢でのコミュニケーションを苦手とし、集団活動になじめない生徒がいる。 ・ 昨年度の年間一人あたりの図書貸し出し数が達成目標に近づいたが、入学以来1冊も本を読んでいない生徒もいる。 	
達成目標	① 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の出席率 ② 学校行事(チャレンジデーⅠ、Ⅱ、Ⅲ)の充実度	③ 年間の図書を貸りる生徒数
	①は90%以上 ②は90%以上	③は全校生徒の50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」の持つ意味の理解とその実践に努める。 ・ 生徒会を主体とした行事の企画・運営を行う。 ・ 行事における自分の役割を生徒に自覚させ、一人ひとりが行事に対してやりがいを持てるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題性の高い作品や生徒の心に響く作品を入れ、それらの案内・掲示を工夫して紹介するなど、読書に対する意識を高めて図書館の利用度を上げる工夫をする。 ・ 図書委員は積極的に委員会活動を行い、生徒全体に図書館活動への参加を促す。 ・ 個人購入図書や電子書籍、校外図書館等の貸し出し図書も推奨し、アンケートで状況把握を図る。
達成度	① 89.0% ② 92.0% (充実+まあまあ充実)	③ 34.1% (1月31日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率に関しては、昨年に比べ2%、充実度も1%共にUPした。生徒会執行部が事前アンケートを実施し、生徒の意見を行事に反映するよう努めた。 ・ 各行事において、生徒一人一人が行事運営上の役割を持つことで主体的な参加につながるように配慮し、働きかけた。 ・ 年次を中心とした教師の細やかな声かけ、配慮、事前指導が、生徒の目的意識に繋がり、行事の活性化に繋がった。 ・ 各行事における個々の役割を自覚させることで、自分の存在を確認でき充実感や自信につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒からのリクエスト本や、学習意欲を喚起するような本、学習や進路選択に役立つような本を積極的に購入した。随時「図書館ニュース」を発行し、新刊案内を行った。 ・ 委員会活動への連絡を委員個々に行い、活動参加率の向上を図った。当番日に責任をもって仕事に参加するよう指導し、一年を通じて季節にあった図書館のディスプレイなどを工夫した。また、昨年の生徒支援講座の講師「中島基樹」さんに関するコーナーを保健厚生部の協力を得て作り、生徒への喚起を図った。 ・ 読書週間では、ポスター掲示、「図書館ニュース」特別号の発行、校内放送を行い、教員からの推薦本の紹介等を行った。
評 価	B ほぼ達成した	D 現状より悪くなった
学校評議員の意見	<p>学校行事は自己実現のために大切なものであり、生徒の自主性を尊重した運営を通して個々の役割を自覚させたりリーダー性を育てたりするとともに、欠席生徒への支援も期待する。</p>	<p>生徒の実態を分析し、読書時間の設置や新刊案内の仕方、読書の効用伝達などを工夫して生徒の読書欲を喚起してほしい。電子書籍への意識調査を行うなど調査の観点を広げると評価も変わるのではないか。</p>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の出席率は、89%と目標達成には至らなかったが、充実度においては平均92%と高い数値を得ることができた。ただし、アンケート未提出の生徒もおり、提出率を高める工夫も必要である。 ・ 生徒数減少のより、学校行事の企画・運営について、更に創意工夫をしていかなければならない。また、部活動のあり方についても検討をしていく必要がある。 ・ 学校行事の出席率、充実度ともに90%以上になるよう生徒、教員が一体となり全体で盛り上げる雰囲気を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の年間貸し出し生徒数は、昨年度より減少し目標には達しなかったが、40冊以上借りる生徒や、20冊以上借りる生徒がいた。工夫を加えてこのように図書館を有効的に活用するような生徒を育てていきたい。 ・ 購入図書の選定、ディスプレイ、委員会活動のPRなどは、生徒の興味関心を引くような工夫をする。図書委員がクラスメイトに直接案内をするなど、委員が活躍できる場を設定する。 ・ 図書館ニュースの発行は好評であり、クラス掲示にはカラー印刷で見やすいものを配付する。

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)	
重点課題	専門科目への意欲的な学習	
現 状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。	
達成目標	介護技術の定着度・できた満足度(生徒の自己評価による) <hr/> 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。 ・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。 ・ 関連授業との連携により介護技術を繰り返し練習させる。 ・ 配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。 ・ 授業のユニバーサルデザイン化を進める。 	
達 成 度	82.5% (1年次 70.0% 2年次 87.0% 3・4年次 82.8%)	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に各介護技術の手順と根拠をしっかりと説明した後、実習に入ることを心がけた。 ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を試みた。 特に、授業の目標→内容→展開の明示、及び、わかりやすいビジュアルなワークシートの作成に留意した。 ・ 講義を含めた関連授業の担当者の情報交換を行い、連携に努めた。 ・ 介護技術の繰り返しの練習や、その自己評価及び生徒同士の評価を行うことで自分の技術を振り返る機会を設けた。 ・ 適切な声かけによって生徒に自信をもたせるようにした。 ・ 2月上旬に3年次生が1・2年次生の前で介護技術公开发表を行う予定である。 公开发表のために練習を重ねることでより技術が定着し、自信を持つことができ、1・2年次生にとっては、卒業までの具体的な目標を確認することができる。 	
評 価	A	達成した
学校評議員の意見	先輩の成長した姿が見られる発表活動が有効に機能して後輩の意欲的な学習につながっている。優しい心と技術を持った、地域で活躍する介護のプロを育成する本校の役割は重要で、上級学校への進学も含め、貴重な人材の育成に尽力願いたい。	
次年度へ向 けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の原則や介護技術の根拠を明確に説明し、技術に生かせるよう指導する。 ・ 関連授業の担当者間の情報交換及び連携に努める。 ・ 担当者の評価基準を統一するために、積極的に授業を参観しあう。 ・ 支援を要する生徒に対するわかりやすい指導方法についての研修を深める。 ・ 生徒の意欲を向上させる声かけや対応について共通理解を図る。 ・ 介護技術公开发表の場を継続し、生徒同士の学び合いを促す。 	